

令和6年度 研究の構想

R 6 . 6 . 1 0 研究部

1. 研究主題 「自他の個性や多様性を尊重し、協働的学びを実現しようとする生徒の育成」

2. 主題設定の理由

●学校目標から

本校は「夢の実現に向かって、確かな自分づくりをめざす生徒の育成」を教育目標に掲げている。

また、3つの校訓「自主」「誠実」「敬愛」をもとに、めざす生徒像を

「自ら進んで学び、互いに高めあう生徒（自主）」

「素直さを忘れず、正しい判断・行動をする生徒（誠実）」

「思いやりの心を持ち、自他を大切にす生徒（敬愛）」

としている。

そして、学校教育目標、めざす生徒像に迫っていくために、令和4年度より本研究主題として「自他の個性や多様性を尊重し、協働的学びを実現しようとする生徒の育成」を設定した。めざす生徒像を具現化するためには、自分を客観的に認識しつつ、人権に関する理解を深めることで他者を大切に、さらに多様な他者とのふれあいを通して自己を広げるための教育活動、教育環境を整えていくことが大切になると考えた。

●生徒の実態から

本校は生徒数9名の小規模の学校で、校区内に小学校2校を有している。生徒は純朴で落ち着いた学校生活を送っており、学習・行事・作業等にまじめに取り組むことができる。一方で、教職員と生徒、異学年の生徒同士の距離が近く、お互いをよく知っているがゆえに、場に相応しくない言動が見られることもある。

学習面においては、学年によって学習の様子に差があり、基礎学力の定着に課題がある。集中力が続かず、学習への意欲を持続させにくい生徒も見られる。また、人数が少ないながら、個性は様々であり、自己理解をすすめるとともに、きめ細やかな指導と支援が必要となっている。

このような実態を踏まえ、まずは日々の学習や活動において自分の良さや課題に気づき、その気づきを他者への受容的な心情を培っていくことにつなげ、自分自身の考えやものの見方、行動を広げていくきっかけにしていく必要があると考える。

●昨年までの研究の成果と課題から

昨年度の研究の一つとして、大田市学力育成プロジェクトで研究を推進している『能力ベース型授業づくり』について取り組みを継続している（3ヵ年計画の2年目）。授業研究では、島根県立大学の齊藤先生による通覧指導や全教員による1人1公開授業（教科+道徳）を実施したことで、生徒につけさせたい力に対する手立てを具体的に考えることができ、教科の枠を超えて学び合い、指導力を高めることができた。今年度も、3ヵ年計画の3年目として1人1公開授業を継続実施していきたい。

小規模校のため他者に思いを伝える機会が少ないことから、教科の授業や様々な集会等において、話し合いの場を積極的に設定したり、終礼時のスピーチや文化祭の全校劇を通して表現力を高める機会を設けたりした。その成果として、思いを伝える相手を明確にして発表する力が少しずつ身についたように思われる。

生徒同士で学び合う機会に限りがあるため、特別活動では、校外へ出かけることや、出前授業・外部講師を招いた講演会等を開催することで生徒が本物に触れる機会を設けた。生徒たちは話を集中して聴き、疑問や感想を必ずもち、堂々と発表する姿を見せていた。活動前に「めあて」を決め、最後にまとめの「振り返り」をすることで、生徒は今の自分を見つめることができ、他者の言動を認め、自己の視野を広げることができたと感じ取れた。

行事では、全校生徒で相談して内容を定めることで、異学年が協力し合い、一人一人が主役となって活動に取り組んだ。話し合う、相談しながら実行する、という過程からも問題解決への手立てを模索し、責任をもって取り組む生徒の姿がみてとれた。

しかし、基本的な生活習慣・家庭学習については、まだまだ十分ではない生徒が見られる。そのた

め、生徒が主体的に取り組むことができる内容にしていくことが必要である。また、授業における約束事を他教科間で共通理解すること、学級全体と個人への対応をすること、支援の必要な生徒の個別の教育支援計画・指導計画を作成することで困り感を軽減していく必要がある。

以上のことから今年度は、学校教育目標を達成するためのこれまでの取組を、学校・家庭・地域と連携しながら充実させることが必要と考え、セルフコントロールと学習習慣の定着に焦点化し、本主題のもと研究を進める。

3. 研究主題の受け止め

(1) <自他を尊重し>とは

- ・自分自身を客観的に認識（メタ認知）し、他者を大切（人権・同和教育）にする
- ・他者との共通点・相違点を知り、認め合う

(2) <多様な他者にふれ>とは

- ・世代、性別、国籍など様々な枠を越え、多くの人とふれあう

(3) <自己を広げる>とは

- ・これまで蓄積してきた自分自身の考えやものの見方、行動を広げようとする

4. 重点的に生徒につけさせたい力とめざす生徒像

(1) 重点的に生徒に

①自分を客観的に見る力（メタ認知力）

②確かな学力

（自己の思考プロセス・課題などを客観的にとらえ、主体的に学習する姿勢や問題解決の能力）

③表現力（コミュニケーション）

(2) めざす生徒像（研究主題を達成した生徒の姿）

- ・将来の夢や進路実現に向けて、自分の課題の克服のための計画を立て、努力する生徒
- ・地域を構成する1人として、多様な他者と関わりながら自己を広げ、考えを発信できる生徒

5. 研究仮説

学校生活において自分を客観的に見る力を向上させる取組と、確かな学力獲得に向けた継続的な取組を行えば、自他を尊重し、自己を広げる生徒が育つであろう。

6. 研究の内容と研究計画

(1) 研究の内容

①多様な他者にふれ、自己を広げる授業づくり

○多様な他者にふれ、自己を広げる学習活動の推進

- ・生徒一人一人の思いや考えを大切にしながら、授業を展開し、生徒が自分を見つめ、考えられるような授業の実践（生徒が深く考えられるような課題設定の工夫）
- ・話し合い活動を工夫し、生徒自ら考え実行できる問題解決能力の育成
- ・特別支援教育の視点に立った授業改善、生徒一人一人の実態に応じた個別の支援の工夫
- ・出前授業、外部講師を招いての授業、リモート交流授業 等

②多様な他者にふれ、自己を広げる人間関係づくり

○多様な他者にふれ、自己を広げる学校・学級集団づくり

- ・よりよい人間関係づくりを進める学級活動の充実（通常学級と特別支援学級の交流）
- ・個別支援の充実

○多様な他者にふれ、自己を広げる特別活動の充実

- ・学校行事、生徒会活動における異年齢集団交流活動の工夫と改善
- ・総合的な学習やキャリア教育の工夫と改善
- ・窯芸活動の工夫と改善（キャリアパスポートの活用）
- ・「目標」と「振り返り」の実践を意識し、自分自身を客観的に認識する力を育成

(2) 研究計画について

○授業づくりに向けて

※すべての教員で「授業改善」「学力育成」

| | |
|-------------------------------|--|
| 1) 一人一公開授業の計画と実施 (訪問指導を含む) | <ul style="list-style-type: none">・多様な他者との出会いがある授業・授業の流れを示す・「めあて」と「振り返り」の実施 (提示方法や形式は各教科に一任) |
| 2) 全国学力調査の分析・活用 | <ul style="list-style-type: none">・全国学力調査の結果を分析し、授業改善に生かす・県学力調査で成果の確認と見直し |
| 3) 家庭学習の定着 | <ul style="list-style-type: none">・学年の実態に合わせて、各教科のワーク等を計画的に活用・家庭学習の目標時間と実際に取り組んだ時間を記入する (きずなノートへの記入の徹底)・ホワイトボードで宿題の量のバランスをとる |

○学ぶ機会を失わせない授業づくり

※教室内すべての生徒にとってわかりやすい授業づくり

| | |
|-------------|---|
| 1) 見通しをもたせる | <ul style="list-style-type: none">・授業の始めに「めあて」と流れを示して、見通しをもたせる。・授業の最後に「振り返り」場面を設定する。 |
| 2) 「今」の伝達 | <ul style="list-style-type: none">・授業の進行状況(今)がわかるような掲示や板書をする。 |
| 3) 情報伝達 | <ul style="list-style-type: none">・短い指示、簡潔な説明で伝達する。・実物を見せて説明する。・ICT 機器等を活用する。 |
| 4) 適切な支援 | <ul style="list-style-type: none">・学習内容をスモールステップ化→難易度の違う課題の提供。・個別の指導計画に基づいた支援。 |

○特別活動等での実践

※自分自身を客観的に認知する力を高める

| | |
|--------------------------------|--|
| 1) 「目標」と「振り返り」を意識した行事等の振り返りの実施 | <ul style="list-style-type: none">・振り返り用紙に、事前に自分で「目標」を設定し、事後の振り返りを行う※・学びの轍(自身の成長記録)・キャリアパスポート |
| 2) 全校劇の実施 | <ul style="list-style-type: none">・研究主題を中心に据え、全校劇の企画・推進を行う※役割演技を通して、様々な見方・考え方を体感する |
| 3) スピーチ・挨拶の実施 (朝礼・終礼時・行事等) | <ul style="list-style-type: none">・学級の実態に合わせて、朝礼か終礼でスピーチをする。・行事の中で、全員の前で話をする。 |
| 4) 職員研修の実施 | <ul style="list-style-type: none">・夏休み、研究職員会議で研修を行う |

R6 朝活動・放課後学習・テスト期間のカベ学習の取り組み

学力育成担当

①朝活動（読み聞かせ、新聞ノートのとき以外は、自学級教室で実施） 8:10 ~ 8:25

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|------|-------------|---|---|--|-------------|
| 1~3年 | 朝読書 ※各教室 | | | 読み聞かせ OR 新聞記事活用(新聞ノート) 【三宅・小野】※図書館 | 朝読書 ※各教室 |

※ただし、定期テストと校内テストの当日は、テスト勉強をする。

②放課後学習【終礼後10分間】（自学級教室で実施）

- 火曜・水曜・木曜の三日間のみ実施
- 国語・数学・英語の3教科を月ごとに交代して実施する
- 1・2年生は同じ課題(漢字の読み、必須英単語、四則計算等)
- 3年生は高校入試に向けた課題 ※例外あり

③かべ学習（月曜日を除いた定期テスト期間中の16:00~16:50、自学級教室で実施）

目的 ① 一人で計画的に学習できる力をつける。

② 自主的に学習を行う習慣と、主体的に学ぶ姿勢を身につける。



- ・一人で黙々と自学をする時間。
- ・わからなくても自分一人の力で考え続け、集中して自分と向き合い勉強を進めてく。
- ※ ただし、わからないことについては、教科担当の先生に質問することができる。
- ※ 教室の見守りは、学年部対応。